

平成29年度学校評価報告書

北海道旭川西高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 自己肯定感を高める指導により、高い志を育む。
- (2) 工夫された授業などにより、主体的に学ぶ意欲を高め、質の高い学力を育む。
- (3) 学校生活を通じて自律性や社会性を培い、責任を持って行動する生徒を育てる。
- (4) 高い志の実現に向けた進路目標を明確にさせ、自ら切り拓く能力を育てる。
- (5) スーパーサイエンスハイスクール事業を活用し、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標 経営方針	「目標とする生徒像としての学校教育目標」について、目標に沿った教育活動が行われていると肯定的に回答した教員の割合は92.7%、めざす学校像に沿った教育活動が行われていると肯定的に回答した教員の割合は95.1%であった。	「目標とする生徒像」及び「めざす学校像」等について、目標に沿った教育活動が行われていると肯定的に捉える回答が大半を占め、高い評価が得られた。その一方で具体的な取組がわからないとの意見もあった。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「重点目標」に沿った指導上の重点事項の実施状況が検証できるよう、評価の観点を設定する。 ○ 学校課題を明らかにするための学校評価の方法を工夫し、職員間での課題の共有化を図る。また、その解決に向けて具体的な方策を明示し、PDCAサイクルによるチェック機能体制を整える。 ○ 学校課題を踏まえて、より実効的な研修テーマを設定し、組織的に解決を図るための研修を計画的に実施する。また、教員個々のライフステージに応じた自己課題に基づく研修を促す。 	
学習指導	学校評価アンケートでは、学期ごとの生徒による授業評価の実施、授業内容とリンクした家庭学習ができるように課題等を配慮していることに対する評価が高い。その一方で、公開授業等を活用した教員相互の授業評価の実施については評価が低くなっている。	肯定的な回答がほぼすべてを占めた。進路目標を早くから意識させ、添削で底上げしてもらうなどのきめ細かな指導がなされているとの意見も見られた。その一方で、補習を増やしてほしいなど放課後等を利用したより一層の指導を求める意見も見られた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行教育過程の導入により生じた諸課題の解決策も段階的に実施している。平成31、32年度入学生教育課程編成で一層の改善を図る。 ○ シラバスを効果的に活用するために、生徒への提示方法を工夫する。 ○ 生徒に、主体的、対話的な学習に取り組ませるため、アクティブ・ラーニング型授業の実践を行うなどの授業改善を図る。 ○ 教科ごとに学習評価や授業研究に関する研修を行い、指導力を向上させ授業改善に取り組む。 	

進路指導	<p>いずれの項目も肯定的な回答が7割程度であり、キャリア教育全般に良しとする評価であった。その一方で、保護者・地域等との連携によるキャリア教育の推進、特に地域と連携したキャリア教育の充実については、否定的な回答の割合がやや高めであった。</p>	<p>学校評価アンケートでの評価はほぼすべてが肯定的であり、高い評価を得ている。個別には、いろいろな場面での講話や本校図書室で行われる緑蔭カフェなどで聞く話が、生徒が自身の進路を考える上でとてもためになっているなど意見が見られた。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路シラバスの改善を継続し、将来を見通したキャリア形成の実現を目指す。 ○ キャリア教育に関するウェブページの充実を図り、生徒のみならず保護者も交えた進路意識の涵養を図る。特に、地域等の人材を活用したキャリア教育の充実については、評価が低めなので、今後、地域との結びつきを強めるとともに、地域等の人材の活用について検討を進める。 ○ 生徒の学習状況や模擬試験等の分析を進め、課題等を明確化して改善する。 	
生徒指導	<p>ほぼすべての項目で肯定的な評価が大半を占めており、評価は高い。ネットトラブル等に対する定期的な指導や、ネット依存症に対する取組、いじめの早期発見への取組についてもライフサポートグループや学年団を中心に、適切に行うことができたと考ええる。</p>	<p>学校評価アンケートでは、保護者の約9割、学校評議員全員が肯定的な回答をしており、評価が高い。個別の意見としても、学校を訪れるたび明るく礼儀正しい生徒の態度に感心しますなどの声が聞かれ、良好なものとなっている。今後も、指導を継続していきたい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネットトラブル・ネット依存については、入学後の早い時期（宿泊研修等）に全体指導を行い、ネットパトロールについても継続する。 ○ いじめアンケートの活用や、学級担任による日常的な面談指導を通じた取組を継続する。 	
健康安全	<p>多様化する生徒へのきめ細やかな対応について、ライフサポートグループ生徒支援チームと学年団が、スクールカウンセラー、専門機関との密な連携を図り、個別に対応する支援計画を作成するなど、きめ細やかな支援体制を確立して実践することができた。</p> <p>災害等に関する危機管理意識の醸成について、実効性のある避難訓練を実施し、生徒の防災意識の向上を図った。</p>	<p>学校評価アンケートでは、保護者の94.3%が肯定的な回答をしており、健康安全については高く評価されている。個別の意見では、体調をくずした時や心に変化があった時、先生方や友人がすぐに声をかけてくれてありがたかったなど、実際にあったことをもとに感謝を伝える意見も見られたが、具体的にどのような取組がなされているのかわからないという声も聞かれた。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化する生徒への支援について、現在の組織体制を維持するとともに、担当者だけでなく、幅広く教職員の協力を促す。 ○ 生命の尊重や健康安全に対する意識を高めるための指導を継続するとともに、実効性のある避難訓練の実施など危機管理意識が向上できる取組を引き続き推進する。 ○ 自転車や歩行者マナー等に関する指導について、外部との連携を行うとともに日常的な啓発を行う。 	

理数教育	<p>「課題研究、大学研修等、SSH事業について充実が図られているか」については95.3%の教員が、「SSH事業を活用した地域の高校生や中学生、教員等と連携した取組の実践が図られているか」については96.0%の教員が肯定的な回答をしており、評価は高い、その一方で二期目の取組に対しての検証については37.2%の教員が否定的な回答をしている。</p>	<p>学校評価アンケートでは、保護者の97.1%が肯定的な評価を、学校評議員は全員がもっとも高い「十分である」との評価をしており、最も高い評価となっている。SSH成果報告会での報告者の態度、聞く生徒の態度も立派であったとの声も聞かれた。その一方で、あまり地域に浸透しているとは感じないなど課題を指摘する意見も見られた。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSH事業について、ウェブページでの情報提供に努めるとともに、課題研究発表会やSSH講演会等を地域へ公開する。 ○ SSH事業が全校的な取組となるよう、マネジメントグループの企画・研究チーム内の分担を見直す。 ○ SSH事業の探究活動を推進するために、教職員の役割を見直す。 ○ SSH事業を通して育成する力について、達成度を評価する方法を検討する。 	
開かれた学校づくり	<p>学校評価アンケートでは、全般的に肯定的な評価が大半を占める。特に、オープンスクールや学校説明会等を活用して学校の教育活動の周知が図られているかについては、ほぼすべての教員が肯定的な回答をしている。また、個別の意見として、「もっと公開してもよい」「今年度は大幅に前進している」との声も聞かれた。</p>	<p>学校評価アンケートでは、保護者の約9割、学校評議員全員が肯定的な評価をしており、評価は高い。個別の意見では、「成果は出ていると思う」「スマートフォンでも見られるのでウェブページは有効活用されていると思う」「子供が提出物を出し忘れることがあっても情報を知ることができる」などの声が聞かれた。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェブページの速やかな更新を継続する。有益な情報が本校ウェブページにあることを保護者に向けてさらに発信する。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会、PTAの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。 	